

## 文化博物館だよりNo. 79

みなさん、こんにちは。

連日30度を越す暑い日がやってきました。朝方、まだ涼しい内に博物館周辺や明石公園内を歩いてみると、コクワガタやヒラタクワガタ、カナブンなどが樹液に集まっています。もう少し雨がほしいところですが、今年の梅雨入りはいつごろになるのでしょうか。

### 1. ギャラリートークでさまざまな秘密が明かされました

6月5日(日)14:00から「花房完昇展」の関連イベント“ギャラリートーク”を開催しました。2階会議室では、花房先生が自信の絵画のテーマやモチーフについてきっかけとなる作家の作品を解説され、描画材や描画手順についても詳しく話されました。作者しか知りえない“秘密の技法”などについても話しが及ぶと、訪れた36名の方が熱心に聞き入り、描画に使うさまざまな小道具にも目を丸くされていました。その後、1階の特別展示室に移動し、花房先生から作品の変遷も含めて一枚ずつ解説がありました。



スライドで解説



制作途中の作品

一枚の絵で三つの場面が展開できる「三連画」はヨーロッパの宗教画から影響を受けたもの。また、ノアの箱舟、バベルの塔、パンドラの箱などの話しに影響されたこと。点描やだまし絵の手法も取り入れていること。話しがアクリル絵の具の特性や描き方に及ぶと、小道具があれこれと飛び出し、「どんな風に描くのだろう」という疑問を解き明かしていただきました。下地を作るときには、サンドペーパーで画面を磨くこと、点描の部分に使うスポンジ、支持棒(ワンチンというらしい)として使う「釣竿」など、作者の創意工夫が感じられました。



三連画の前で



質問に答える花房先生

「忙しい学校の仕事で、いったいいつ描いておられるのですか?」という質問に、「朝早くとか、作品搬入前は24時間描きますが、とにかく根気、自分に対して厳しく我慢して描いています。」と答えられました。「モノから建物へとモチーフが変わってきています。震災の年の作品は、建物がキャンパスの中で非常に不安定なイメージを受けると思います。」「細かい絵ですが、絵の中にだまし絵など、あそびの要素も入っていますので、そのへんも楽しんでほしいですね。」

学校の先生らしく、解説にはいろいろと実物を用意していただき分かりやすかったことが印象に残りました。

「花房完昇展 幻想の詩情」は6月26日(日)までです、みなさんのご来場をお待ちしています。

## 2. 博物館ボランティア 研修開始

6月4日(土)博物館ボランティアの研修が始まりました。館長から「博物館ボランティア入学試験」と題した明石原人や古代の明石に関する10問の ×クイズが配られると、ボランティアさんはびっくりされたようで、「あー、何にも知らないわ。」「不合格もあるのですか?」と緊張した面持ちで問題に取り組まれていました。その後の解説で予備知識を聞き、館内見学、常設展示室の解説を少しだけ聞きました。これからしばらく何度も何度も研修していかないといけないのですが、一人一人のやる気に期待できそうです。



入学試験? ×クイズを受験中 常設展示室 テーマ1で

明日は2回目の研修、「新たな発見」を求めて、ボランティアさんの研修が7月まで続きます。

明石市立文化博物館  
編集:永田 浩史